

news

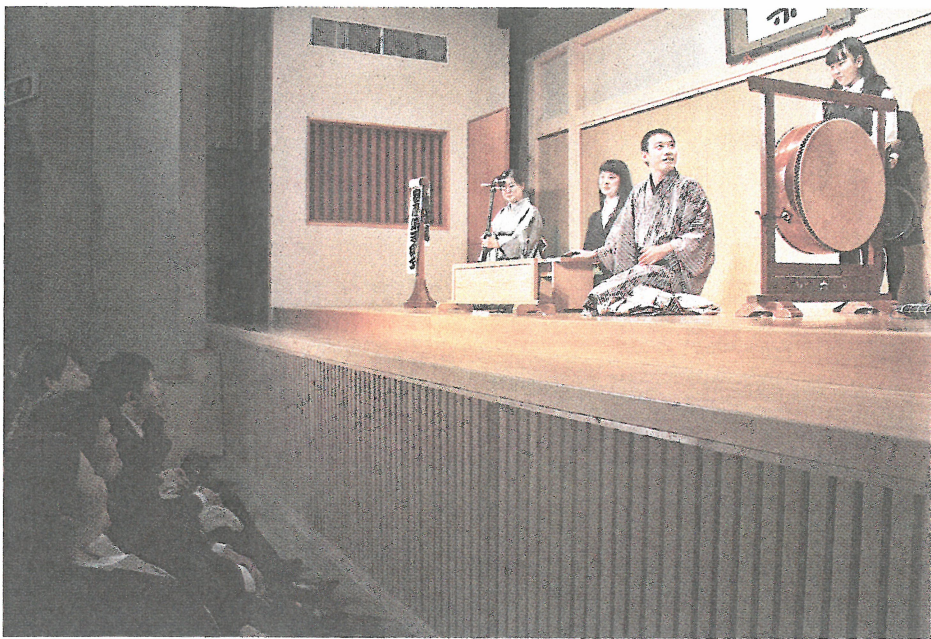
# 大阪文化を支えよう

## 相愛大学人文学科の学生が「繁昌亭」で討議

宗門校の相愛大学(金児曉嗣学長、大阪市住之江区)人文学部人文学科が11月5日、上方落語専門の寄席小屋「天満天神繁昌亭」で学外研修を行った。2年生の必修科目「社会人基礎力形成演習」の授業の一コマで、この日は同学園の高校生(希望者)を含む60人が参加した。

この企画は、落語家の桂春之輔さんが同大客員教授であることから、「相愛学園×繁昌亭」のコラボ企画が実現。「人文の学びが大阪文化を支えるプロジェクト」と銘打ち、大阪の伝統文化「落語」の継承をツールに、1年間、あらゆる角度から探究・調査・分析を重ねていく。その学びを通し、学生自身は社会に通用する力を身につけ、一方、学生たちの調査研究の成果を社会に提供することで、地域貢献・地域活性をねらっている。

初回は桂春之輔さんの落語会に参加。弟子の壺之輔さんから大阪落語の特徴や道具の使い方、お囃子や演じ分けなどの実演を交えた説明を聞き、体験(写真)した。楽屋、周辺地域などさまざまな角度から観察実習し、「繁



昌亭を若者でいっぱいにするには」をテーマに討議した。

同学科の平田かつきさんは「舞台上上がる時の一礼や『勉強させていただきました』という挨拶など、カッコいい世界だった。魅力を伝えるため知恵を絞りたい」、松田魁統さんは「どうしたら若者に人気が出るか、具体的な部分をこれから一生懸命考えたい」と話した。また、高校3年生の三浦由貴奈さんは「大学生と共にアイデアを出すのが楽しかった。イベントでひきつけて、とにかく一度、落語を見るきっかけ作りが大切だと思った」と話した。

同学部教授でもある中村圭爾副学長は「もっと積極的に社会に出て行って、生き生きと活躍できる学生を育てたい」と話している。

## 児童と大学生の学び

龍谷大

児童に学びの楽しさを伝えようと宗門校・龍谷大学(赤松徹真学長)が開く「龍谷ジュニアキャンパス」が5年目を迎え、好評。11月8日に



は、京都市伏見区の京町家を改装した「深草町家キャンパス」で茶道教室が開かれ、児童19人が茶道部の学生から藪内流のお手前や作法を学んだ。「お茶点て」体験では児童が茶筌を振って点てた抹茶を付き添いの保護者ら

## 雅楽でゆったりと

仙台別院

仙台別院(農利信輪番、仙台市青葉区)は10月29日、東日本大震災の被災者支援活動として、「仙台市社会

